

令和6年度

# 1年のあゆみ



京都市学校茶道研究会

## 目 次

1	はじめに	清川 秀一
2	学校茶道研究会 理念	清川 秀一
3	学校茶道研究会 研究主題	峰 絹恵
4	学校茶道研究会 組織	清川 秀一
5	学校茶道研究会 令和6年度年間事業	清川 秀一

### 【 本年度の取組 】

6	京都伝統産業・文化研修講座 ～まずは大人が素敵な出会いを～ 講師 学校指導課 森川 寿代首席指導主事	金治 恵子
7	錦秋茶会 ◇ 「親子で楽しむ茶道体験」	藤井峰子・小杉由紀子・遠 史香

## はじめに

平成17年12月14日に京都市学校茶道研究会が発足し、今年度で19年目を迎えました。「京都市の全ての子ども達に学校茶道を」目指して、京都市教育委員会、裏千家淡交会の各位に多くのご指導をいただき、小学校研究会に所属しながら、幼稚園から高校までの会員で構成されているという校種の枠を超えて、教科・領域の学習や部活動の中で、茶道を通して相手をもてなし、人を思いやる心、人を大切に作る心を育てるという理念のもと、熱意ある取組が行われてきました。しかしながら、一昨年までは新型コロナウイルスの流行に伴い、本研究会の事業も縮小することになりました。コロナ禍が終息した昨年度は茶会も復活させるなど研究会活動を本格的に再開させ、今年度に臨みました。

今年度は新たな出発として、事業内容を大きく変えて、初めてのことに挑戦しました。まず、事業の中心の取組であった「茶会」については、例年が国際交流会館で行ってききましたが、京都市役所の和室を会場にして錦秋茶会を実施できました。これには、京都市教育委員会学校指導課の皆様のご尽力を頂いたことにより、共催という形で実現しました。リニューアルされた京都市役所での実施は参加者に大変喜ばれ、京都市にとってもよいPRになりました。

次に伝統産業・文化研修講座においても、従来とは違った形で実施しました。茶道経験のない教職員が、体験をしながら文化に触れることができるような内容にして、多くの参加者が茶道文化に親しむことができました。

しかしながら、茶道にかかわる研究授業については、残念ながら実施することはできませんでした。理由としては会員数が減少している中、学級担任をもつ会員が大変少なくなっていってしまったことによるものです。若い人材がなかなか増えないことは、どの研究会においても同じことではありますが、本研究会は教科ではないうえ、専門性が高いことから敬遠されていることがあります。小学校における茶道体験の全校実施を展開するため、教育課程にどのように位置づけるかをテーマに研究実践を行ってききましたが、授業のできる会員の獲得が今後の大きな課題として浮かび上がりました。

来年度においては、全市で研究会活動が促進されることから、会員のさらなる獲得を目指し、茶道文化がさらに浸透するよう、研修や茶会の工夫をしていく予定です。伝統文化都市京都における京都市教育において、京都市学校茶道研究会が一躍担い、伝統文化である茶道を取り入れた教科等のカリキュラムや授業のスタンダード化の推進に力を入れていかななくてはと考えます。

最後になりましたが、本年度の研究会活動にご協力、ご指導いただきました京都市総合教育センター 中村友彦主任指導主事、学校指導課 森川寿代首席指導主事、茶道関係者の皆様方、四規の会の皆様に感謝申し上げますと共に、今後より一層のご支援をお願い申し上げます。

令和7年2月 会長 清川 秀一

# 令和6年度 学校茶道研究会 研究の方向について

京都市学校茶道研究会  
研究部

## ○研究主題

### 「日本の伝統文化に親しむ」

～茶道を通して思いやりの心を育む～  
～伝統文化教育－茶道から広がる伝統文化～

## ○主題設定の理由

「日本の伝統文化」が息づく街、多くの伝統的な文化をはぐくんできた人々が活躍する京都。文化庁の京都移転に伴い、伝統文化教育の充実を京都市教育委員会として重点に挙げられている。小学校では「茶道」、中学校では「華道」を教材として、京都の子どもは全員、伝統文化に親しむ体験を行うこととなった。新型コロナウイルスの影響は大きかったが、今後は学校茶道を進めていくため、感染拡大防止について注意を払いつつ、安心安全な茶道文化の体験を実施していく必要がある。

学習指導要領第1章総則には、伝統文化教育の大切さが挙げられている。道徳教育における道徳性を養うことを目標の一つとして、豊かな心と伝統と文化を尊重することが明記されており、各教科においては、伝統的な言語文化を始め郷土や我が国の伝統や文化を大切にすること、伝統産業など地域の特性を大切にすることなどが示されている。

平成24年9月5日に古典の日に関する法律が公布・施行された。京都市では、源氏物語千年紀を記念して平成20年11月1日に「古典の日」を宣言した。また、平成27年2月には、「京都文化芸術プログラム2020」が策定された。近年、先人から受け継がれ、800年の長きにわたって伝えられてきた茶道の礼儀作法やおもてなしの心を「日本の伝統文化」として尊重し、それらをはぐくんできたわが郷土を愛する態度を養い、伝統的な京都の文化芸術を自分の言葉で国内外の方々に伝えられる力が求められている。京都に生まれた子どもたちには、伝統文化の一つである「茶道」を通して、茶道に関わってこられた人々の思いにふれ「茶道の心」を追究することによって、今も生活の中に息づく『伝統的な文化』に気付き、各教科等の学習活動に伝統文化教育を位置付け、部活動・学校行事・地域行事で体験・実践できるように考え、今年度の主題を設定した。

## ○研究の視点

お茶を飲む風習は、1300年前の奈良時代に遣唐使や中国の僧によって日本に伝えられたと言われており、それを千利休が茶道として確立し、世に広めたと考えられている。子どもたちは、『一碗の茶を通して亭主と客が気持ちを通い合わせる』という日本古来の茶道を知ること、客に対して「おいしい」と言ってもらえるようなお茶を点て、心を込めて差し上げる。また、いただいた客も心を和ませてお茶をいただき、亭主と客がお茶を通して互いの思いを通じ合わせる。この、互いを「思いやる心」こそが、今、子どもたちに求められているものではないだろうか。本市がこれまでの学校教育において培ってきた人権に対する認識を育てる指導とは、基盤となるところでつながっている。

子どもたちには、決して型にこだわるのではなく、簡単なお茶のいただき方や点て方から日常

のマナーや振る舞いを身につけ、そのことから物を大切にすることや人に対する敬意や配慮、季節を感じる感性などを育みたい。茶道は、同学年児童、異学年児童、家族、地域の方などとの交流の場として設定することで、コミュニケーション能力を養う機会となり、何かと受け身になりがちな子どもたちの生活の中で、自分から積極的に人と関わろうとする態度を養うことができる。

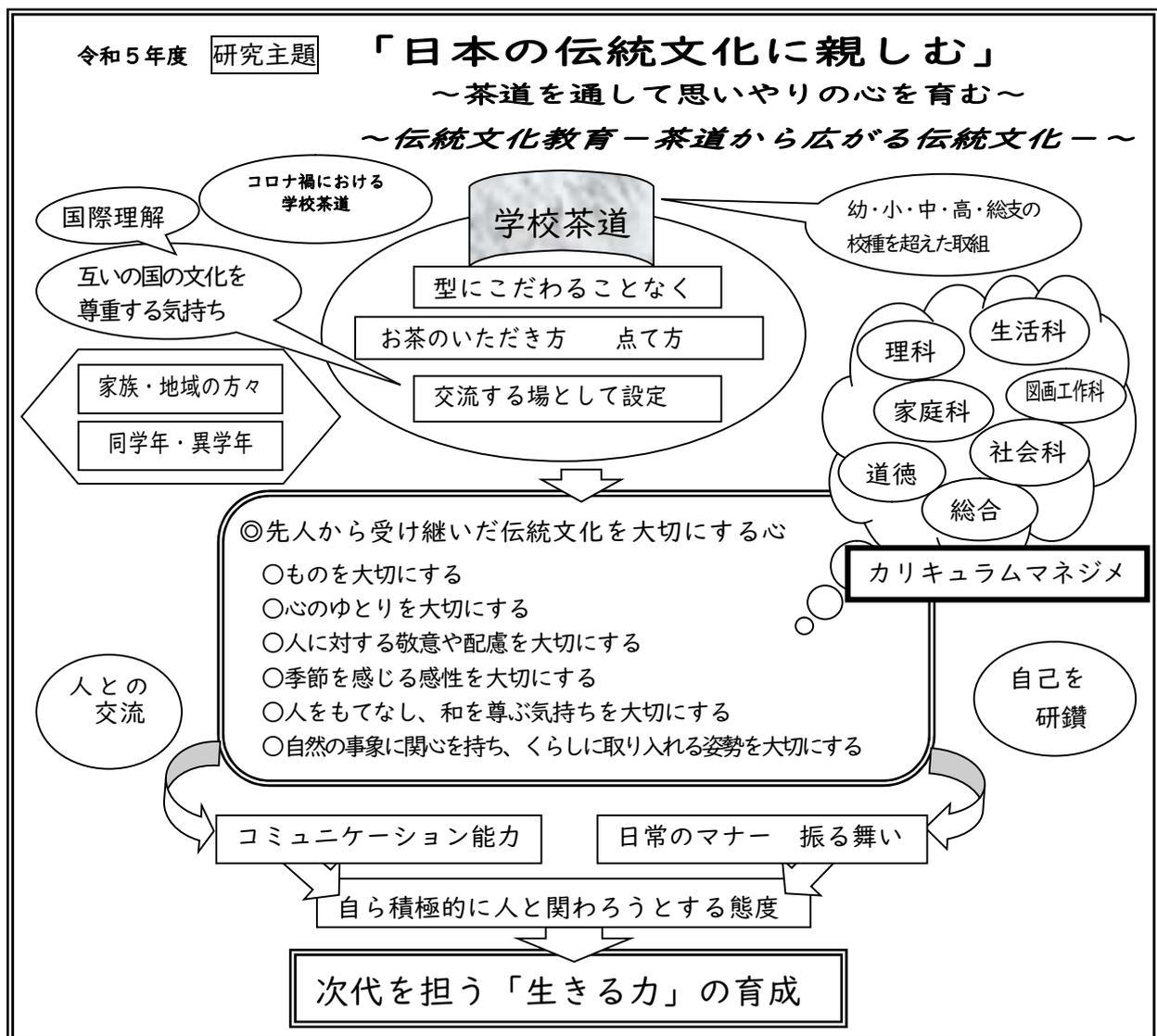
また、学校教育の重点では、「豊かな心」の育成に向けて豊かな感性・情操を育む教育の充実として、伝統文化に触れ、それらを生み出し、守ってきた人々の長い歴史と情熱、その優れた知恵や技を受け継ぐことの大切さを知ることを通して、子どもが自らも伝統や文化を受け継いでいく担い手であることを実感できる取り組みを充実させることが求められている。

これからの時代を担う子どもたちには、伝統文化に触れる機会を意図して設定し、「伝統と文化を受け継ぎ次代と自らの未来を創造する子ども」の育成を図りたい。

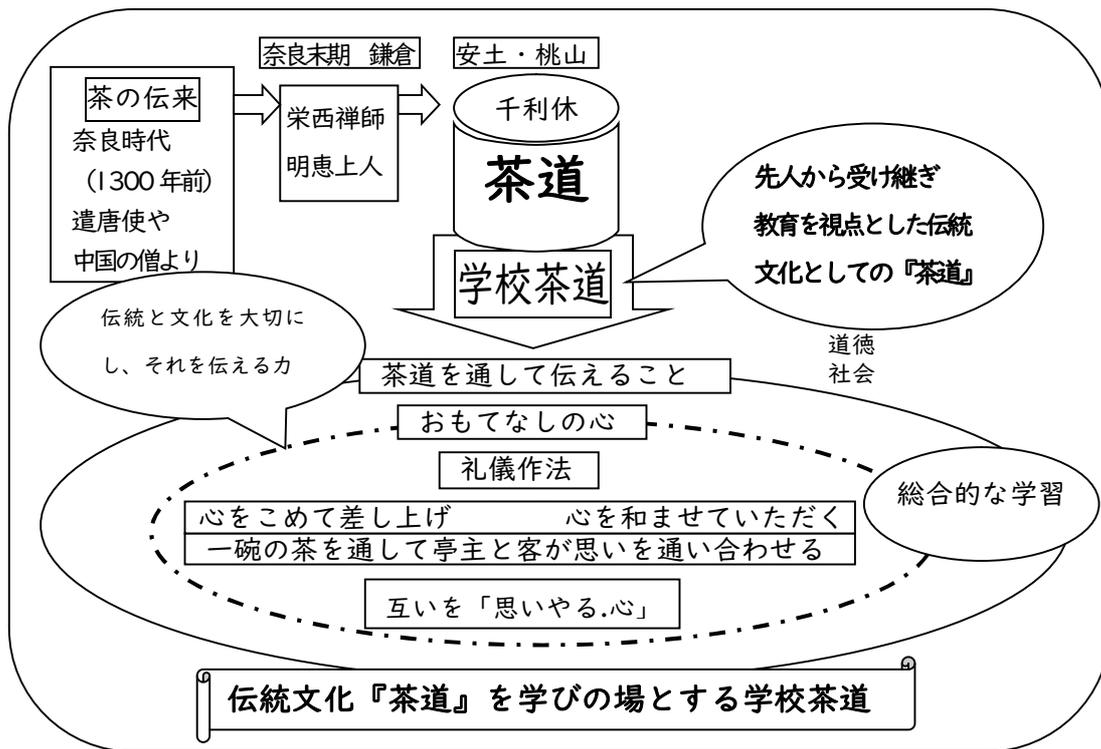
また、これまで、各教科等の学習内容と関連させて、「茶の心についての学習」や伝統文化や産業・歴史・人権・食育・国際理解等、多岐にわたる内容を学習してきた。今後、「総合的な学習の時間」や「道徳」「社会科」における指導計画を立案し、カリキュラムマネジメントを行うことで、京都市の全小学校で取り組める茶道体験の方法について取り組み、深めていきたい。

### ○研究の構造

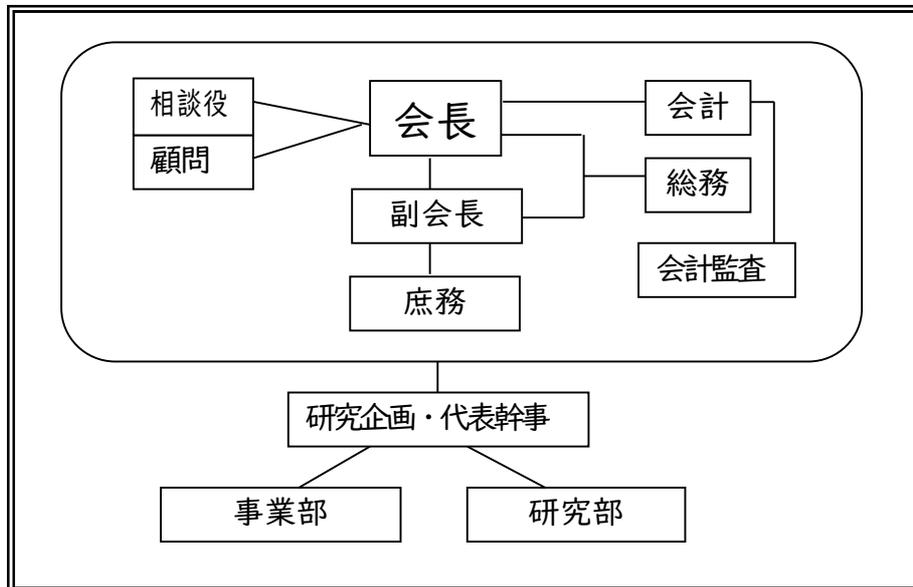
## 令和6年度 学校茶道研究会 研究構想図



○研究の視点



○研究組織



○各部のテーマ

部	テーマ
事業部	茶道を通して思いやりの心を育む
研究部	全校種で行う伝統文化教育を推進するための授業実践を行う。

## 令和6年度 学校茶道研究会組織表（案）

### <役員>

会 長	清川 秀一（常磐野小学校校長）
副会長	市村 淳子（葵小学校校長）・・・研究担当 徳留 祐悟（深草小学校長）・・・事業担当 西田 由紀（伏見住吉幼稚園長）・・・事業担当 田島 永久（檜原小学校長）・・・事業担当 那須 宏子（竹田幼稚園園長）・・・事業担当
総 務	鶴原 幸子（市原野小学校教頭）・・・研究担当
庶 務	藤井 峰子（下鴨小学校指導教諭）・・・研究担当
会 計	田中 麻衣（竹田小学校教諭）・・・研究担当
会計監査	小杉 由紀子（養徳小学校学校司書）・・・事業担当

### <企画委員会>

代表企画委員（代表幹事） 峰 絹恵（明親小学校常勤講師）・・・研究担当

### <相談役>

中村 通子（元学校指導課 参与）  
前田 達宏（元生涯学習部 首席社会教育主事）  
多田 彦士（元学校指導課 専門主事）  
村井 千種（元朱雀第六小学校校長）  
中道 昌宏（元竹田幼稚園長）  
園部 純三（元下鴨小学校校長）  
多田 薫（総合育成支援課 専門主事）

### <顧問>

森川 寿代（学校指導課 首席指導主事）  
中村 友彦（総合教育センター 主任指導主事）  
浅野 理々（総合育成支援課 専門主事）

### <特別技術顧問> 茶道関係者等

\* 役員は、事業または研究のいずれかを担当し、各事業を企画委員と共に企画・立案・実施する。

## 令和6年度企画委員（案）

京都市学校茶道研究会

### □代表幹事

峰（明親小）

### □事業部（茶会・伝統産業文化研修講座）

小杉（養徳小）

達（堀川高）

金治（伏見南浜小）

多田（教育大付属支援）

### □研究部（授業研究会）

鶴原（市原野小）

藤井（下鴨小）

箕牧（仁和小）

田中（竹田小）

### ■役員

清川（常磐野小）

市村（葵小）

徳留（深草小）

田島（檜原小）

西田（伏見住吉幼）

那須（竹田幼）

藤井（下鴨小）

鶴原（市原野小）

田中（竹田小）

小杉（養徳小）

峰（明親小）

### ■相談役

中村通子（元学校指導課）

前田達宏（元生涯学習部）

多田彦士（元学校指導課）

村井千種（元朱雀第六小学校長）

中道 昌宏（元竹田幼稚園長）

園部純三（元下鴨小学校長）

多田 薫（総合育成支援課）

### ■顧問

森川寿代（学校指導課）

中村 友彦（総合教育センター）

浅野 理々（総合育成支援課）

○年間計画 令和6年度

月	日	行事予定	内容	場所	担当
5月	7日	役員会		オンライン	会長
	14日 (水)	企画委員会	年間計画	下鴨小	会長
6月		総会	書面		会長
7月		前日準備	研修準備	下鴨小	会長
	31日 (水)	京都伝統産業・文化研修講座 〈市教委との共催〉	茶の心	アスニー	研究部
9月	17日 (火)	企画委員会	錦秋茶会 研究授業	下鴨小	会長
10月	2日 (水)	企画委員会	錦秋茶会準備	下鴨小	会長
10月	9日 (水)	企画委員会	錦秋茶会準備	下鴨小	会長
11月	2日 (土)	錦秋茶会 〈市教委との共催〉	全校種対象・保護者含む茶 席体験	京都市役所	事業部
	中止	茶道体験公開授業	茶道体験のある教科学習		( )
1月		1年の歩み作成	実践事例集・指導案集を 含む		各担当が行事 ごとに作成
2月末～ 3月上旬		研究会冊子編集及び発送	研究会の1年間の研究と 事業のまとめを編集し、 会員に向けて発送する。		

# 京都市学校茶道研究会

**研究主題** 『日本の伝統文化に親しむ』～茶道を通して思いやりの心を育む～

～伝統文化教育—茶道から広がる伝統文化—～

## 1 研究の概要

<研究主題設定の理由>

先人から受け継がれ、800年の長きにわたって伝えられてきた茶道の礼儀作法やおもてなしの心を「日本の伝統文化」として尊重し、それらをはぐくんできたわが郷土を愛する態度を養うことが求められている。京都に生まれた子どもたちには、伝統文化の一つである「茶道」を通して、茶道に関わってこられた人々の思いにふれ「茶道の心」を追究することによって、今も生活の中に息づく『伝統的な文化』に気付き、各教科等の学習活動に伝統文化教育を位置付け、部活動・学校行事・地域行事で体験・実践できることを目指していく。

<本年度の活動>

○総会・研修会

紙面開催とする。

○京都伝統産業・文化研修講座（茶道）

・7月31日（水）

・会場：京都アスニー

茶道についての研修会実施を行うにあたり、体験を重視した講座を行った。全くの初心者にも実際に茶を点てる体験を通して学ぶことで、伝統文化について考える機会にした。会場については京都アスニーで行い、入り口のある本格的な茶室であるとともに、大広間の中に作られていることで、大人数で茶室を見学することができる素晴らしい設えであった。

講座の内容については、まず茶道の基礎として、茶道の歴史や成り立ちを知るとともに、茶席の心得、から禅語についての講義を行った。続いて、茶道を教育課程に取り入れるためのカリキュラムマネジメントについて講義を行った。

次に実技に移り、まずは会員によるお点前のデモンストレーションを見学、その後席入り体験、お床の拝見を全体で行い、それからはグループごとに茶を点てる体験を行った。

参加者からは実際の体験をすることで、伝統文化について深く考えることができたという感想を頂いた。

・一般参加者 33名、会員 14名、計47名

○錦秋茶会（子ども体験教室）

・11月2日（土）会場：京都市役所和室

京都市立学校・幼稚園に在籍する児童生徒とその保護者を対象に、茶会を開き、お菓子やお茶のいただき方を学んだりする機会として、京都市役所で開催した。

一席20名の6部制、京都市の48校・園から幼・小・中・高・支援学校の子どもと保護者が茶席体験を行った。テーマを「源氏物語」として、クイズを解きながら茶を楽しむという試みを行った。

・参加者 120名、会員 22名、147名

○「茶道」に関わる授業研究会

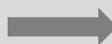
・会員不足により、今年度は開催を見送り。

研究会活動を2つの事業に絞って活動を行ったが、いずれも新規事業であり、新しいチャレンジを行うことができた。錦秋茶会の開催は初めて京都市役所の和室を使用することで、申し込みが定員を大きく超えた920名であった。落選した人数が多いため、来年も続けて京都市役所での開催を考えたい。

## 2 課題と次年度への展望

京都市のすべての児童が茶道体験を行うという本市の伝統文化教育を推進するために、授業の中で茶道体験を行える学習カリキュラムを作ることが必要であるが、研究会員不足で、授業者が見つからず今年度は開催できなかった。授業のできる研究会員が増えるよう、努力していく。

研修 ID	60439	主催	京都市教育委員会 京都市学校茶道研究会
教員等の資質の向上に関する指標との対応		学習指導	

名称	(全校種) 京都伝統産業・文化研修講座② (茶道)		
副題	まずは大人が、茶道文化とのすてきな出会いを。		
研修で学べること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶道の歴史や考え方などの基本的な知識の習得ができる。</li> <li>・ 茶を点てて飲む体験と、所作の実技を学ぶことができる。</li> </ul>		
日時	令和6年7月31日(水) 14:00~16:00 (受付 13:30~)		
実施方法	集合研修		
場所	京都市生涯学習総合センター(京都アスニー) 第5研修室(3階)		
対象者	(全校種) 全教員 <b>※定員30名(定員を超えた場合は抽選)</b>		
特に受講を推奨する者	茶道や伝統文化についての見識を		<input checked="" type="checkbox"/> ~採用10年目教員(ステージI、II)
	校内で生かそうとする教職員		<input checked="" type="checkbox"/> 採用11年目教員~(ステージIII、IV~)
申込締切	令和6年7月12日(金)		

内容	14:00 挨拶	京都市学校茶道研究会 会長	
		京都市立常磐野小学校 校長	清川 秀一
内容	14:05 講義	「『茶の心』 ~千利休の教えについて~」	
		講師	学校指導課 首席指導主事 森川 寿代
		「学校茶道の進め方 ~小学校で行う茶道体験について~」	
		講師	京都市学校茶道研究会 会長 清川 秀一
内容	演習	「割り稽古」「盆略点前」	
		講師	京都市学校茶道研究会 会員
内容	「割り稽古」「盆略点前」を通して、茶道についての基本的な作法を学び、茶席における実技体験により、おもてなしの心や、伝統文化についての理解を深めるとともに、学校茶道において子どもたちに付けたい資質・能力について考えます。		
	15:50 まとめ・挨拶	総合教育センター指導室 主任指導主事	中村 友彦
内容	振り返り		
	16:00 終了		
連絡事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員を超過した場合、抽選を行います。抽選結果については、<u>参加していただけない場合に限り</u>、7月22日(月)までに、管理職及び本人に電子メールでお知らせします。なお、連絡がなかった方は受講可能です。</li> <li>・ 参加にあたり、実費(お茶・お菓子代)として500円をいただきます。</li> </ul>		
持ち物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加費(500円)、白い靴下</li> <li>・ 自分の扇子、懐紙、帛紗(ふくさ)等がある方は、持ってきてください。</li> </ul>		

令和6年度京都伝統産業・文化研修講座報告

作成 金治恵子(伏見南浜小学校)

日時 令和6年7月31日(水) 14:00~16:30

場所 京都アスニー 第5研修室(和室35畳+17.5畳 和室8畳 水屋・台所)

事前準備 ①座学の講義担当・しつらえ担当・進行役・説明役・指導役・水屋役等の役割確認

②7月13日14:00~15:00 会場下見・及び貸出用道具申込

貸出用具…茶碗(赤楽・黒楽)・瓶かけ+鉄瓶セット・水指・竹結界

③菓子・茶の発注手配 茶花の手配・打ち合わせ 席札の作成

④講義使用教材の準備・印刷(プロジェクターなどはアスニーで設置)

⑤7月26日 15:00~ 道具の点検・選定・数量確認・梱包・運び出し

当日準備 朝9:00~12:00

道具運び込み及び点検・準備

講義用プロジェクター類・受付(受付用紙、筆記用具など)準備

和室掃除(座卓・座布団・毛氈設置)、床飾り、茶道具飾り、ごみ袋設置

お湯を沸かす、ごみ袋設置(台所)、お茶を濾す、棗に茶を盛る、人数分の盆セット

当日進行

13:30	受付開始 第5研修室入口	参加者確認、参加費の徴収、講義資料・席札配布。
14:00	あいさつ	和室(17.5畳) 司会 峰 絹江先生。 清川校長先生より、会の趣旨、今回の研修会について挨拶。
14:05	講義① テーマ「茶の心」 	和室(17.5畳) 森川 寿代先生 16ページの小冊子とパワーポイント。 「茶について」「茶道の成り立ち」「茶道の心」 お茶を飲むようになるまでの歴史と、茶道を広めた千利休について、簡単に紹介。「茶道の基礎知識」「茶席の心得」「禅語の茶掛」等について丁寧に説明していただいた。
14:25	講義②「学校茶道の進め方」 	清川秀一先生 学校での教科指導・教育活動に茶道をどのように取り入れていくかについて講義をいただいた。
14:35	休憩	トイレ休憩。各自で座布団を片付け、隣の35畳に移動。

14:40

裏千家風炉薄茶盆略点前の実演



四畳半点前席

手前実演:鶴原 幸子先生

説明:浅野 理々先生

正客・次客実演:小杉 由紀子先生(正客)

達 史香先生(次客)

\*参加者が後の実技で、自分でお茶を点てて飲めるように、盆略点前を披露。袱紗さばきや茶巾を使った点前をしていただいた。

\*席入りの時の持ち物、席順があること、扇子の扱い、にじり口の入り方、足の運び方、床飾りの拝見の仕方、釜の拝見の仕方、席に着き座る位置や扇子を置く場所を説明を聞きながら見学。この後の菓子の食べ方についても実演をもとに見学。

薄茶…「蒼雲」(詰 角與商店)

菓子…銘「菊花火」(ご製 ことのは)

【四畳半席床】

軸…「瀧直下三千丈 足立泰道」

花入…「桂籠」

花…風船カズラ・宗旦木槿・コバノミヤマノボタン

香合…「神代杉 青楓に鮎蒔絵 星山造」

14:55

席入り体験



お菓子のいただき方実技



和室(35畳)

\*正客(小杉先生)の見本を見た後、足の運びに気を付けながら一人ずつ順に入室。お床の拝見した後、毛氈の上に置かれた「い〜への席札」を見て各自の場所に着席。

\*お菓子は脇取盆に懐紙を敷きその上に一人分のお菓子を乗せて運び出し。各自脇取盆からお菓子を取りいただく。

【本席床】

軸…「和敬清寂

全大徳寺 積応」

花入…「宗全籠」

花…矢筈・河原撫子・キントラノオ・ヤマホロシ・

花石菖

香合…「笹蒔絵 正玄造 鵬雲斎在判」



<p>15:20</p> 	<p>盆略点前稽古 (い〜への6グループ で1グループ5人)</p>	<p>*お茶の点て方、いただき方について、まず指導者の手本を見学。 *棗から茶杓でお茶をすくって茶碗に入れる。お茶を点てて、いただくというところまでの所作をひとつお稽古。 *お茶を点てるための道具の名称や取扱いについて説明。 *帛紗さばきについて、また茶巾の扱いについても希望があれば稽古。</p>
<p>15:50</p>	<p>まとめ・あいさつ</p>	<p>中村友彦主事より本日のまとめと終わりの挨拶アンケート記入のお願い。</p>
<p>16:30</p>	<p>掃除・片付けの後 打ち合わせ～ 解散後、下鴨小に道具を運ぶ</p>	<p>研究会会員のみで。 片付けが終了後、解散。</p>

2

## 準備他

### ① 台所

座卓を設置しその上で道具やお菓子を準備。洗った茶碗、茶筌、棗などの片付けも座卓で行う。

お菓子を乗せた脇取盆は、持ち出すまで板間(水屋)に仮置き。

今回、点て出しはしなかったが、する場合は、ここで行うことも可能。

ゴミ袋の設置。※梱包がどのようになされていたか、道具を出す前に写真を撮っておく。

### ② 和室

縁側に棗と茶筌・茶杓を仕込んだ茶碗をのせた盆を人数分用意しておく。

17.5畳:押し入れ前縁側寄りに座卓を2台重ねて荷物置場を用意。講義用の座布団はあらかじめ並べて置く。座布団の片付けは各自にお願いする。

35畳:毛氈をあらかじめ敷いておく。(席入りの入り口だけあけて敷く。)盆略点前の実演見学は、四畳半周りに座って見学する。点前の実演用盆は、四畳半茶道口に用意しておく。席入り体験前に毛氈に席札を並べておく。

## 片付け

道具を洗った茶碗等はできるだけ乾かして梱包する。銀瓶・竹結界などアスニーで借りたものは、始めにおいてあった場所に置く。タオル・茶巾は手分けして 自宅で洗濯する。(洗濯後、下鴨小へメール便封筒で送る)下鴨小に戻った後、茶碗など乾燥が必要なものは出して乾燥させ、後日片付ける。

## 参加者の感想

- ・茶道のお点前を見せていただいたり実際に自分が立てたりすることで、茶道への認識が深まりました。また、グループの方々と自然な形でお話でき自校・自分への生かし方を考えることができました。
- ・以前茶道を習っていたのですが、随分遠のいていたので、いざ生徒に部活動で教えるとなると不安に思っていたのですが、今回の研修は、レベル的には、丁度よかったです。贅沢な感想ですが、後半は少しあわただしかったので、もう少し落ち着いてやりたかったです。
- ・お茶を点てる機会が持てたことが大きな進歩でした。また、お軸の話など聞かせてもらえ、茶道の糸口が見つけたようで良かったです。奥が深いので、どこから始めればよいのか困っていました。
- ・いただいた資料がとても参考になりました。子ども達の体験にも生かすことができと思っています。アスニーの和室にも初めて入り、よい経験ができました。
- ・茶道についてのお話を聞き学びが深まりました。また、床の間の飾りやお道具を拝見することでお茶の世界の美を感じることができました。お茶を点てる体験もでき、良い機会であるとともに学ぶ側の気持ちにもなれました。学校の活動に茶道を取り入れることで日本文化を学ぶ機会になるとわかりました。
- ・2年ほど前から自分が茶道を習っており、習ったことも生かして、子ども達にどのように茶道体験を計画していくかについてヒントが得られればと思って参加しました。その目的が達成されたと思って喜んでいます。



## 子ども体験教室のご案内

10月8日  
申込締切

### 『 錦 秋 茶 会 』

秋涼の候、教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

京都市学校茶道研究会では、昨年に引き続き茶会〔子ども体験教室（茶道）〕を開催いたしますので、ここにご案内申し上げます。

つきましては、添付の園児・児童・生徒・保護者向けのお知らせを、貴園・校の子どもたちに紹介していただきますようお願い申し上げます。

#### 1 日 時 令和6年11月2日（土）

第1部 11:00～11:40（定員20名）、第2部 11:40～12:20（定員20名）

第3部 12:20～13:00（定員20名）、第4部 13:00～13:40（定員20名）

第5部 13:40～14:20（定員20名）、第6部 14:20～15:00（定員20名）

\*体験時間は、約40分です。時間帯は、後日に参加者へお知らせします。6部制になっていますので、第1希望と第2希望を決めてください。定員を超える場合は抽選を行います。抽選結果を後日連絡いたします。

#### 2 場 所 京都市役所（地下鉄東西線 京都市役所前駅） 4階和室

※市役所正面入口（御池通側）の少し西側にあるスロープからお入りください。

#### 3 内 容 お茶会を体験します。お茶席への入り方、あいさつのしかた、おかしやお茶のいただき方、お道具の拝見の仕方などを体験します。

#### 4 参加対象 京都市立幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、総合支援学校に在籍する園児・児童・生徒及びその保護者

※茶道部顧問の先生につきましては、申し込み可能です。直接、下記問い合わせ先までメールか電話でお申し込みください。（多数の場合は抽選となります）

#### 5 参加申し込み

① 園児・児童・保護者への案内文を掲示等でご紹介頂きますようお願いいたします。希望者がいましたら、案内文「錦秋茶会へのおさそい」をコピーして持ち帰らせてください。家庭からQRコードを使って申し込んでもらいます。

② 10月8日（火）が申し込み締め切りとなります。6部制ですので、第1希望と第2希望をお尋ねいたします。申し込み多数の場合は、抽選により参加者を決定いたします。

③ 抽選結果及び参加時間帯につきましては、後日、ご家庭へ直接電子メールにて連絡いたします。

④ 以後のやり取りについては、研究会と直接やり取りいたします。

⑤ 参加費は1人500円。当日受付にて頂きます。

問い合わせ先 常磐野小学校 校長 清川 秀一 TEL (075) 872-9735

令和6年9月吉日

園児、児童、生徒の皆さん  
保護者の皆様

京都市学校茶道研究会  
会長 清川 秀一

子ども体験教室

きんしゅうちやかい

# 錦秋茶会へのおさそい

日時 令和6年11月2日(土)

第1部 11:00~11:40 (定員20名)、第2部 11:40~12:20 (定員20名)  
第3部 12:20~13:00 (定員20名)、第4部 13:00~13:40 (定員20名)  
第5部 13:40~14:20 (定員20名)、第6部 14:20~15:00 (定員20名)  
\*体験時間は、約40分です。時間帯は、後日に参加者へお知らせします。6部制になっていますので、第1希望と第2希望を決めてください。定員を超える場合は抽選を行います。抽選結果を後日連絡いたします。

場所 京都市役所 (地下鉄 京都市役所前) 4階和室  
対象 京都市立幼稚園・小学校・総合支援学校 (保護者同伴)・中学校・高校に在籍する子どもとその保護者  
内容 お茶会を体験します。(お茶席への入り方。あいさつのしかた。おかしやお茶のいただき方。お道具の拝見の仕方などを体験します。)  
持ち物 道具は特に必要ありません。会場で用意します。  
申込み ※多数の場合は抽選を行い、結果はメールでお知らせします。  
費用 参加を希望する人は、10月8日(火)までに、下記QRコードから申し込んでください。  
全て1席のみ体験で、一人500円です。参加費は当日持ってきてください。(体験される保護者の方も同じです。)

\* 小学生以下は、保護者の方の付き添いが必要です。お席に入られなくても結構です。その場合は保護者の方の参加費はいりません。

## 子ども体験教室「錦秋茶会」申し込みフォーム

- 参加を希望する人は、10月8日(火)までに、各家庭から右のQRコードから直接申し込んで下さい。締め切り後の申し込みは受け付けません。
- 参加の時間帯については、主催者側で決定し電子メールでお知らせいたします。なお、申し込み多数の場合は抽選を行います。参加決定については、電子メールでお知らせいたします。電子メールのアドレスは連絡の付きやすいものをお願いいたします。
- メール連絡は10月中旬ごろに行います。もし、連絡がこない場合については下記までお問い合わせください。



問い合わせ先 京都市立常磐野小学校 075-872-9735 (担当 清川)

# 令和6年度 錦秋茶会報告

藤井峰子(下鴨小)・小杉 由紀子(養徳小)・達 史香(堀川高)  
※以下、敬称略で作成

## 1. 日時

- 令和6年 11月2日(土)
- スタッフ活動時間…8:00 (~17:00まで)
- 茶会開催時間・場所…11:00~15:00 京都市役所内茶室(地下鉄東西線京都市役所前駅)

## 2. ねらいとテーマ

京都市立幼稚園から高校までの幼児・児童・生徒が茶席に参加し「ほんもの」の伝統文化を体験することで、相手を思いやる心や季節を感じる心、道具を大切に扱う心、所作の美しさを学び伝統文化の素晴らしさを感じ取ることで豊かな情操を育てる。テーマは「源氏物語」とし、クイズ形式で席中の「源氏物語」に関係するものを探しながら茶道の文化に親しむ。

## 3. 事前準備

- ①・菓子手配:藤井 ことの葉/「光る君」  
・抹茶手配:峰 詰「角與商店」/銘「蒼雲」  
・その他物品購入手配:藤井 茶筌、柄杓など
- ②・道具分類、荷造:藤井・小杉 10月2日(水)下鴨小16時~19時  
・掲示物、ワークシート作成:藤井、達、小杉 10月9日(水)下鴨小16時~18時  
・席札作成:金治 当日までに自校にてカラー印刷、裁断、ラミネート  
・徒然棚点前の参考動画を会員向けに事前共有:鶴原  
・半東メモ作成:小杉 前日までに作成、会員に配布  
・看板作成:村井先生



- ③・参加者事前学習用動画を掲載:清川会長

学校茶道研究会 HP/動画1「お菓子のいただき方」、動画2「お茶のいただき方」

- ・終了後の参加者アンケート用 URL 作成・準備
- ④・会場下見:清川会長、森川 10月30日(水)午後
- ⑤・荷物積み込み:藤井、鶴原 10月31日(水)下鴨小 18時
- ・荷物積み込み:清川会長、森川 11月1日(木)下鴨小 11時半

#### 4. 参加者

●京都市立の幼・小・中・高・支援学校に在籍する園児・児童・生徒・付き添い保護者120名を募集  
参加費用 1人500円

※応募者多数(900名以上/51校・園)のため抽選を実施し120名に案内

➡当日は体調不良により欠席者数名

※抽選の方針の決定、結果連絡など清川会長に一任したが、事務作業が煩雑なため今後、改善方法を検討する必要がある。

#### 5. 当日役割分担・タイムテーブル

統括	清川会長
総務・受付案内・会計・誘導	清川会長・徳留副会長・田島副会長
相談・助言	中村通子先生(四規の会)・村井千種先生(四規の会) 中道昌宏先生(四規の会)

※その他:記録写真・弁当受け取りなど

		炉の席
8:00	●荷物搬入・準備	【連絡調整】遠・小杉・藤井 【毛氈(敷く・コロコロ)担当】中山・金治 【お湯沸かし・茶碗等清め】多田・鶴原・峰 【懐紙折る・へぎ板入れ・お菓子】 原田・谷中・金治 【水屋場作り:白布・茶碗・茶筌・茶杓・ごみ袋・椅子等の準備】 西尾・峰・高橋も・河合 【お抹茶濾し・糰】金治・原田 【お床飾り】森川・浅野・中村・西尾 【炉縁・釜・煙草盆・火入れ炭・灰型】 浅野・高橋ま
9:30	●打ち合わせ	【寄付・待合・受付準備】 清川会長・徳留副会長・田島副会長・中道先生・村井先生・森川 【謎解きワーク 解答コーナー】遠・小杉・藤井 ☆この時に第一席のメンバーがデモをしつつ、お点前、半東の動きや語り、正客・詰、運び出しを相互に最終確認。
10:30~	●受付開始 茶席誘導	清川会長・徳留副会長・田島副会長・中道先生・村井先生・森川 統括 清川会長 ・受付にて席札・淡交社パンフ・クイズワークシート配布 徳留副会長・田島副会長・中道先生

		業者からお菓子・弁当受取 ・ 寄付きでの待機案内・ワークシート解説・解答 村井先生 ・ 寄付きから待合への案内・待合での待機案内 森川
11:00~	第1席 葵の席 (あおい) 各席20名程度	【お点前】達 【半東】 中村先生 【正客】 淡交会、学校指導課 【詰】多田 【水屋・お運び】お点前・半東していない方々(以下同) *役割は、適宜状況に応じて変更可能・来客があれば正客へ案内する *棗・茶杓・茶碗(清めて)を飾り残す(クイズ解答のため)
11:40~	第2席 夕霧の席 (ゆうぎり)	【お点前】達 【半東】 浅野 【正客】 西尾
12:20~	第3席 若紫の席 (わかむらさき)	【お点前】鶴原 【半東】 箕牧 【正客】 西尾
13:00~	第4席 松風の席 (まつかぜ)	【お点前】小杉 【半東】 中村先生 【正客】 中山
13:40~	第5席 東屋の席 (あずまや)	【お点前】金治 【半東】 浅野 【正客】 原田
14:20~	第6席 紅葉賀の席 (もみじのが)	【お点前】峰 【半東】 箕牧 【正客】 高橋も
15:00~	●後片付け開始	
16:40	●ふりかえり	
16:50	●会長より	
17:00	●完全撤収→道具を下鴨小へ搬入	

※スタッフの昼食は、合間を見て適宜交代でとる

### 〈点前・半東について〉

#### ◇ 徒然棚炉点前

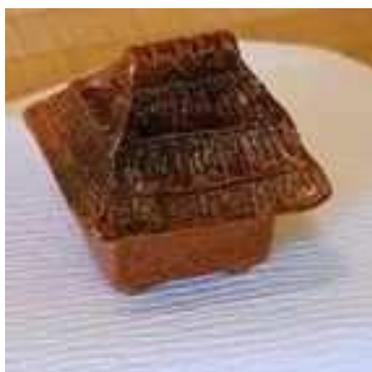
- ・亭主は正客・次客分の二椀を点てる。入り飾り。拝見あり→お棗、お茶杓、主茶碗を清めて拝見に出しておく。建水・仕舞い茶碗を水屋に下げ、水つぎ後主客総礼して下がる。半東は、事前配布の半東メモを参考にして、クイズの答えとともに道具の説明をする。
- ・お道具は裏千家で準備するが、他流派でのお点前可。
- ・お点前、半東、お運び役は原則、着物を着用。

## 6. 会記

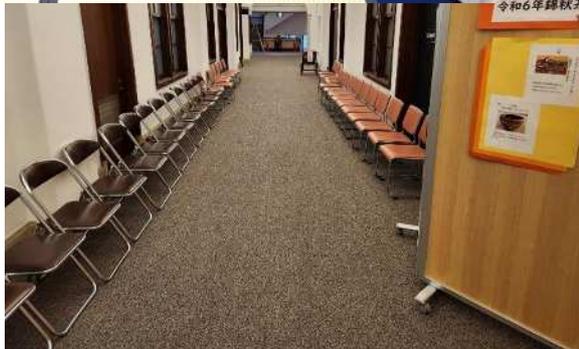
【軸】	待合 百人一首「あらざらむ この世のほかの 思ひ出に 今ひとたびの あふこともがな」(和泉式部)
	本席 「山呼万歳声」(鵬雲斎大宗匠)
【テーマ】	「源氏物語」
【花】	西王母、ミズキ
【花入れ】	交趾 鶴首(翠嵐)
【香合】	「東屋」(昭楽)
【釜】	志きの釜
【棚】	無限斎好 徒然棚
【水指】	輪花口七宝繫(浩人)
【茶器】	建仁寺益州在判「菊唐草」棗(池乃浦大起)
【茶杓】	銘「仕え合う」(鵬雲斎大宗匠)
【主茶椀】	嵯峨野(木村宜正)
【替茶椀】	「蔦蒔絵」(清閑寺)
【蓋置】	源氏香宝尽(金谷宗林)
【建水】	宝尽彫(金谷宗林)
【茶】	「蒼雲」(角與商店)
【菓子】	「光る君」(ことの葉)

【当日の様子】

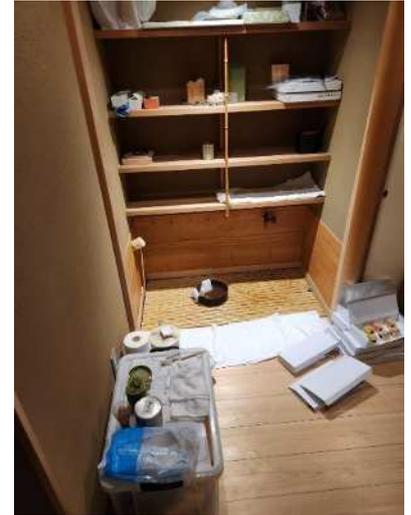
本席



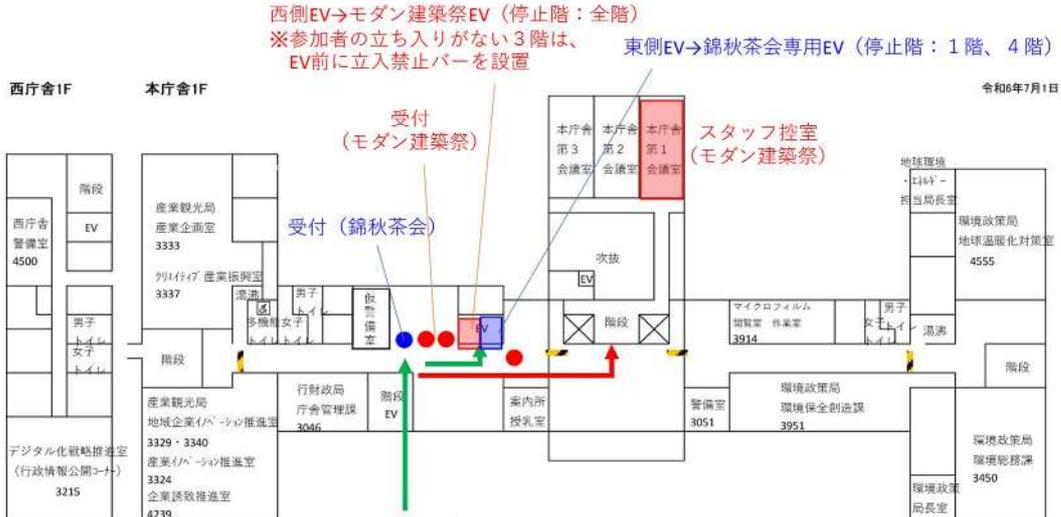
受付・待合



水屋



# 7. 会場図



**【モダン建築祭 (文化芸術企画課)】**

- 定点スタッフ：7名
- ★ 巡回スタッフ：2名
- 順路
- 両イベントで被っている順路
- 🚫 立入禁止サイン

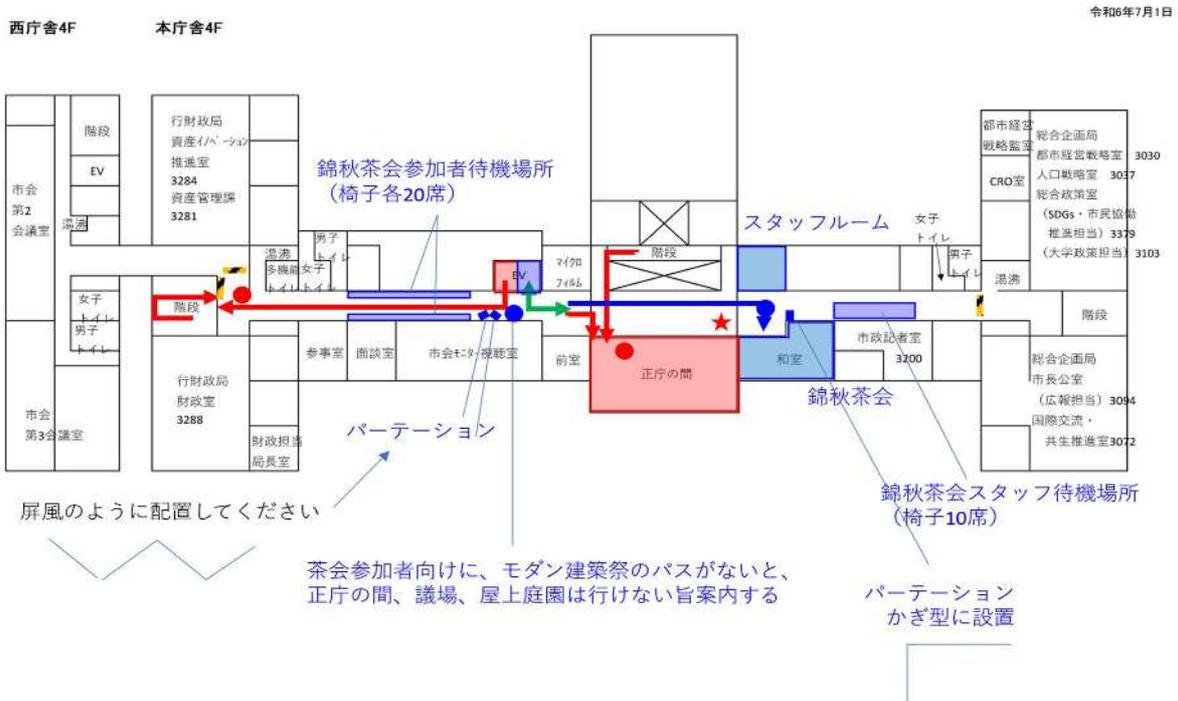
参加者は、左記の名札を着用

**【子ども体験教室「錦秋茶会」 (学校指導課)】**

- 定点スタッフ：3名
- 順路
- 両イベントで被っている順路
- パーテーション

参加者は、青色の名札を着用  
※和装スタッフは、名札着用免除。  
ただし、常に掲示できるよう持っておく。

※各スタッフは、どちらのイベントのスタッフが分かるよう、名札等の着用を行うこと。  
※各スタッフは、茶会参加者へ当日正庁の間、議場、屋上庭園もモダン建築祭向けに公開しているが、バスがないと入れない旨案内すること。



## 8. 準備物・購入品など

お道具		数	所持・準備担当
お軸	「山呼万歳声」鵬雲斎大宗匠	1	藤井 T
自在		1	研究会
矢筈		2	研究会
花	椿・枝もの		持ち寄り
花入れ	翠嵐 鶴首	1	研究会
敷板	真塗矢筈板	1	研究会
花ばさみ		1	研究会
風炉先		1	研究会
香合	「くず屋」(東屋)	1	鶴原 T
お香	梅ヶ香	1	研究会
紙釜敷	白	1	研究会
釜・環	志きの釜「肩衝釜」炉用	1	研究会
炉縁	塗	1	研究会
棚	徒然棚	1	藤井
水指	粟田焼「輪花口七宝繫」安田浩人造	1	藤井
お糺	「菊唐草蒔絵」建仁寺益州 在版	1	研究会
茶杓	「仕え合う(しあわせ)」鵬雲斎作 人は支え合うことで幸せになる	1	藤井 T
主茶碗	「嵯峨野」木村宜正	1	藤井
替茶碗	「つた蒔絵」清閑寺窯	1	
数茶碗	昔話シリーズ14・七宝6 京焼	20	研究会
		10	市役所所持
蓋置	点前用「源氏香宝尽くし」金谷宗林 水屋用(竹)	1	藤井 T
		1	市役所・研究会
水注	つぼつぼ	1	研究会
建水	宝尽くし彫 金谷宗林	1	藤井
柄杓(炉用)	点前用 水屋用	2	研究会
		2	市役所
蓑盆一式	蓑盆・火入れ・灰・火入れ炭・煙草入れ・割り箸・へら・香	1	研究会・藤井 T
毛氈	紺色	5	研究会
		2	藤井 T

## 9. その他

・当日、茶道具の搬出入のある方のみ 駐車場代を研究会から出す。事前に清川会長と要相談。

市役所への搬入には、車両情報(車種・ナンバー)事前登録が必要。

・当日の持ち物

ぞうきん(お掃除用)    ハンカチタオル    エプロン(割烹着)    替えの足袋・靴下

## 10. 参加者アンケート結果

「大変良かった・良かった」：多数

- ・茶会への参加は親子ともに初めてであったが、ほどよく寛ぎながら本格的な茶道のもてなしを体験することができた。
- ・お茶もお菓子もおいしく、もっと和菓子を食べてみたいと話していた。
- ・市役所のお茶席に入れたことも良かった。
- ・季節や源氏物語を意識した茶花や道具、着物等に目を惹かれた。
- ・数茶碗が昔話をテーマにしたものであり、子どもへの配慮を感じた。
- ・茶道という作法が難しいというイメージがあったが、実際に心のこもったもてなしを受けて、作法とはもてなしの気持ちに伝えるコミュニケーションの方法なのだと感じた。
- ・子どもが実際に抹茶を入れ、お茶を点てる体験をやってみたかった。
- ・実際に道具を触ってみたかった。
- ・今までの茶道体験を生かして、茶席を楽しむことができた。
- ・床の間の香合の話が興味深く、子どもは香合について調べてみようという意欲を高めていた。
- ・小さな子ども連れで茶席に行くことは難しく、今回の茶会に参加できたことで子どもに茶席体験をさせたいという願いを叶えることができた。
- ・お茶は緑茶のような味かと思っていた。思ったよりもっと苦かったが、また行きたい。お菓子の色合いがグラデーションになっていておもしろかった。
- ・写真撮影が可能で、良い記念になった。
- ・源氏物語のクイズを解いたり、美味しいお茶とお菓子を頂けたりと、大変楽しかった。来年もぜひ参加したい。
- ・子どもは美しいものや空間が好きで学校の茶道部で活動している。お辞儀の仕方など、部活動で学んだことを生かすことができた。お茶会のあと、学んだことを自主勉強していた。
- ・子どもは、「楽しかった。また行きたい。」と言っていた。
- ・足がしびれたけれど、それを忘れるくらいどちらも美味しかった。
- ・子どもは、「少し緊張したけれど、また行きたい。」と言っていた。

「あまり良くなかった」：1名

- ・抹茶が薄く美味しく感じなかった。お菓子が甘いので抹茶は通常の濃さで良いのではないかと思う。良い企画なのに残念だった。



# 京都市学校茶道研究会